

うまくいかなかった経験から学ぶ

3月を迎え、吹く風や日差しに春の気配が感じられる頃となりました。校庭の桜も咲き始めるのを、つぼみをふくらませながら今か今かと待っているところです。

「おもいでアルバム」という曲の歌詞に、「春のことです。思い出してごらん。あんなこと、こんなこと、あったでしょ♪」というのがあります。春夏秋冬と季節が巡り、また春が来ようとしています。この一年間、どんなことがあったでしょう。楽しかったこと、辛かったこと、頑張ったこと、怠けてしまったこと、助けられたこと、助けたこと、優しくできたこと、励まされたこと、けんかしたこと、注意されたこと……。みんなみんな思い出です。

思い出の中には、単なる記憶になるもの、やがて忘れ去られていくもの、いつまでも残り今後の人生に生かされるものなど、様々なものがあります。その中でも、人生の糧となるものを、経験と言っていいでしょう。そして、経験には、うまくいったものもあれば、うまくいかなかったものもあります。どちらが多いかということ、おそらくうまくいかなかった方でしょう。「うまくいかなかったことから学ぶ」姿勢こそが、人生を歩んでいくうえで大事なのです。私たちは、うまくいくことを目指して努力することが多いです。しかし、うまくいかないことが多々あります。そんなときは、過程で努力したことを大切にしたり、うまくいかなかった原因を考え前へ進もうとすることを大事にしたりしたいものです。

成長していく子どもの姿

2月最後の授業参観では、たくさんの学年で、自分ができるようになったことや自分の成長を見つめ発表する姿を見ることができました。また、親や家族等に感謝し、その気持ちを表現で伝える姿も見られました。その姿を見ていると、一人ひとりの成長を実感できました。子どもの成長は一様ではありません。大きな伸びもあれば、わずかな伸びもあります。しかし、その伸びつまり成長は、その子によって違っているものなのです。人は、比例のグラフのように成長していくものでもありませんが、成長しない人もいません。また、成長の途中で立ち止まったり、道に迷ったりするの人もゆえだと思えます。

子どもに関わる教師や家族や地域の大人たちは、子供たちを信じ、導き、確かな成長を褒め、ときには待ち、その歩みと向き合っていくことが大切なのです。大人として、答えを教えることは簡単なことですが、それよりも、時間がかかっても、よいものを見つけ出していく力や仲間との関係を身につけさせていくことに勢力を注ぎたいものです。

最後になりますが、一年間、学校運営に関わる様々な行事に出席いただいたり、学校からの依頼にご協力していただき、誠にありがとうございました。職員一同子供たちのために力を尽くしてまいりましたが、課題や不十分な点はあります。2月の学校づくりアンケートでお寄せいただいた声を真摯に受け止め、よりよい学校改善に生かしていきたいと考えております。今後も、子ども一人ひとりの成長のため、保護者の皆様と、そして地域の方々と力を合わせながら学校づくりをしてまいりますので、ご協力の程よろしくごお願い申し上げます。

